様式Ｆ-１９

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）研究成果報告書

平成　25　年　6　月　4　日現在

機関番号：34315
研究種目：若手研究（B）
研究期間：2011　～　2012
課題番号：23720126
研究課題名（和文）浮世絵師西川祐信の基礎的研究－上方と江戸の文化交流を中心として－

研究課題名（英文）A basic study for Nishikawa Sukenobu-Focus on cultural exchanges between Kamigata and Edo

研究代表者
石上　阿希（ISHIGAMI　AKI）
立命館大学・衣笠総合研究機構・ポストドクトラルフェロー
研究者番号：20516819

研究成果の概要（和文）：本研究では様々な分野の研究者と共同研究を行うことで、祐信を立体的に照射することを目指した。「西川祐信研究会」を二回開催し、美術史、工芸史、文学史などの研究者 7 名からの発表を得、それらを論文化し、論文集『西川祐信を読む－西川祐信研究会論文集』として刊行した。また、イギリス・大英博物館、ヴィクトリア＆アルバート博物館などを中心に祐信の絵本調査を行い、約 190 点の書誌情報を収集した。

研究成果の概要（英文）：This study aim to examine the various aspects of Nishikawa Sukenobu through a collaborative research with various researchers. I have held two workshops for Nishikawa Sukenobu inviting 7 researches such as literature, art history and craftwork and I have published a book *Nishikawa Sukenobu o yomu* as our results in 2013. In add, I have gathered the information of Sukenobu's 190 illustrated books. I have researched some museum such as The British Museum, The Victoria & Albert Museum and so on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
交付決定額	2,000,000	600,000	2,600,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学、日本文学
キーワード：文学史、美術史、工芸史、出版史

１．研究開始当初の背景

西川祐信（1671～1750）は、江戸中期に京都を拠点として活躍した浮世絵師で、その画業は浮世絵や絵本、艶本など多岐に亙り、後続の絵師や作者に大きな影響を与えた。江戸文化研究において重要な絵師にも関わらず、十分な研究がされてきたとは言い難い状況であったが、近年俄に祐信研究が隆盛の兆しを見せている。

ただし、西川祐信という浮世絵師を研究することは、単なる作家研究にとどまらない。彼の作品、あるいは彼をとりまく制作状況の背景を知れば知るほど、浮世絵研究だけではなく、文学史、社会史、風俗史、染織・服飾史、教育史、出版文化史など様々な研究分野に及ぶ問題を孕んでいることに気付く。なぜ、これまで祐信研究が十分に進んでこなかったのか、その理由の一つはここにあると言える。つまり、一人の研究者が扱うには、対象が大きすぎるのである。そこで、本研究では個々の研究者が個別に研究を進めるのではなく、複数の学問分野の研究者同士が連携した活動を行うことで、西川祐信を起点とした総合的な江戸文化研究を行う。学問分野の研究者同士が連携した活動を行うことで、西川祐信を起点とした総合的な江戸文化研究を行う。しかし、そのような研究活動の基礎となる作品目録が整えられていないというの

が、祐信研究における大きな問題点である。

２．研究の目的
　本研究では祐信の画業の全体を捉えると同時に、祐信の作品が当時の社会の中でどのように機能していたのかを明らかにすることで、京都の出版文化が江戸の都市文化へと繋がり、展開していく様相を明らかにする。

（1）西川祐信の全作品総合目録の作成及びデータベース化

（2）多角的視点（浮世絵研究・文学研究・社会史研究）からの祐信の作品・作家研究

３．研究の方法
目的（1）以下の項目を対象に、西川祐信作品の総合目録を作成する。①一枚絵（肉筆・版画）、②挿絵本（浮世草子、役者評判記など）、③春画・艶本、④絵本
　この内④の絵本に関しては、松平進氏による目録『師宣祐信絵本書誌』（1988 年）を土台に目録を作成する。ただし、祐信の作品の多くは海外の博物館・図書館に収蔵されている。目録作業にあたっては、海外での書誌調査が必要不可欠であり、大英図書館・フランス国立図書館やボストン美術館・ホノルル美術館など欧米の図書館・博物館での調査を実施する。

目的（2）西川祐信の画業は多岐に亘り、その作品を分析するためには、文学史、美術史、装飾史、風俗史など様々な視点が必要となる。そのため本研究では、様々な研究者と共に定期的に研究会を開き、相互の視点から多角的に祐信を捉えていく。このように、祐信を起点として異なる学問分野の研究者と連携することで、江戸の出版文化を通して、近世における都市文化の全体像を明らかにする。

４．研究成果
目的（1）に関して、2011 年度は主にヨーロッパでの調査を行った。イギリス・大英博物館の他、個人コレクターの所蔵品を調査し、90 点の祐信作品情報を収集した。また、2012 年 4 月から 7 月まで大英博物館を研究拠点として、祐信作品の調査及び 2013 年 10 月から開催される大英博物館での春画展準備を進めた。大英博物館の所蔵する祐信の肉筆画、版本など 70 点の書誌調査・撮影を行った。またヴィクトリア＆アルバート博物館（イギリス・ロンドン）の所蔵品 27 点の調査も行った。この調査によって得られた情報を、作成中の西川祐信作品総合目録に追加した。

目的（2）国際日本文化研究センターにおいて、2 回に亘り西川祐信研究会を開催した。その成果は『西川祐信を読む－西川祐信研究会論文集』（立命館大学アート・リサーチセンター発行、全１６７頁）としてまとめ、発行した。論文集には３名の海外研究者からの論文も含まれる。それらの論文は、英文と日本文の両方を掲載し、国内外に広く研究成果を発信できるようにつとめた。文学史、美術史、工芸史、社会史など多様な分野から祐信を考察し、論文集全体で多角的に祐信を捉えることができた。また、祐信に関わる先行研究も目録化し掲載した。

　個人研究では、主に以下のトピックを扱った。
①祐信絵本が江戸の春本に与えた影響　祐信の絵本が後続の江戸浮世絵師に与えた影響については、諸学の指摘するところであるが、春本に与えた影響についてはほとんど研究が進められていない。そこで、鈴木春信、北尾重政の作品に着目し、彼らがいかに祐信の図柄を春本に利用していたかを明らかにした。また、古典文学作品を春本に取り入れるという趣向の確立に、祐信絵本が大きく関与していたことも指摘した。

②「訓蒙図彙」と祐信作品の網羅主義について　祐信の絵本や春本には、あらゆる階層の人々が描かれ、彼らの風俗や習慣、生活が詳細に描き分けられている。網羅主義ともいえるその趣向が、江戸時代の百科事典である様々な「訓蒙図彙」の流れに汲みするものであることを考察した。

　今後は、作成した目録を基に、人名検索に特化した作品データベースを作成する予定である。人名検索という着眼点は、一人の作家研究のツールだけではなく、文学史、美術史、社会史など様々な分野の研究に活用できるツールへと拡充させるものであると考える。従来の目録ではその絵師がいつ、どのような作品を制作したのかを知ることは出来るが、どのようなサークルの中で作品が制作されたのか、どのような人物に影響を与えたのかを調べることは難しい。しかし、本研究で構築するデータベースを用いれば、祐信が影響を受けていた人物が誰であったのか、祐信がどの版元とどのような傾向の作品を作っていたのか、どのような知識人とネットワークを構築していたかなどを検索することが可能であり、様々な研究者にとって有益な

ツールとなるだろう。

本研究では、祐信の画業の全体を捉えると同時に、祐信の作品が当時の社会の中でどのように機能していたのかを明らかにすることで、京都の出版文化が江戸の都市文化へと繋がり、展開していく様相を考察するものである。浮世絵・文学研究と視覚文化研究という異なる視座を用いることによって、旧来の研究方法では到達することの出来なかった新たな近世文化の全体像の見解を得ようとするところが、本研究の独自性である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① 著者名：石上阿希、論文標題：日本春画における外来思想の受容と展開、雑誌名：立命館文学　中西健治先生退職記念論集、発行年：2013 年、ページ：202-212
② 著者名：石上阿希、論文標題：Poetry and Palimpsest in Suzuki Harunobu's Eight Modern Views of Interiors (Furyu Zashiki Hakkei)、雑誌名：Andon、巻：90、発行年 2011 年、ページ：5-21
③ 著者名：石上阿希、論文標題：「忠臣蔵もの」の艶本、雑誌名：アート・リサーチ、査読：有、巻：11、発行年：2011 年、ページ：17-36

〔学会発表〕（計５件）

① 発表者名：石上阿希、発表標題：Erotic Editions of Chusingura The Forty-seven Loyal Retainers、学会名等：ITP joint ARC-HPU-UMH Research Workshop on Japanese Performing and Visual arts、発表年月日：2013 年 3 月 2 日、発表場所ハワイ（アメリカ）
② 発表者名：石上阿希、発表標題：The World of Erotic Illustrated Comic Fiction: Shunga and the Kibyōshi、学会名等：Association for Asian Studies 2012 Annual conference、発表年月日：2012 年 3 月 15 日、発表場所：トロント（カナダ）
③ 発表者名：石上阿希、発表標題：How did Nishikawa Sukenobu's Shunpon Depict Various Castes?: A Case Study of Iro hiinagata (1711)、学会名等：the 13th International Conference of the European Association for Japanese Studies(EAJS)、発表年月日：2011 年 8 月 26 日、発表場所：タリン（エストニア）
④ 発表者名：石上阿希、発表標題：春画をめぐる対外意識―春画をつくる、みる、学会名等：国際シンポジウム「日本意識と対外意識、発表年月日：2011 年 7 月、発表場所：法政大学（東京都）
⑤ 発表者名：石上阿希、発表標題：Erotic Kibyoshi Illustrated Comic Fiction、学会名等：SHUNGA in its Social and Cultural Context、発表年月日：2011 年 5 月 20 日、発表場所：イギリス（ロンドン）

〔図書〕（計５　件）

① 編者名：石上阿希、出版社名：立命館大学アート・リサーチセンター、書名：西川祐信を読む－西川祐信研究会論文集、発行年：2013 年、総ページ数：167
② 著者名：石上阿希、松本郁代、出光佐千子、彬子女王、出版社名：思文閣出版、書名：『風俗絵画の文化学Ⅱ虚実をうつす機知』、発行年：2012 年、ページ：pp.255-281
③ 著者名：石上阿希、白倉敬彦、出版社名：平凡社、書名：別冊太陽　国芳の春画、発行年：2012 年、ページ：78-81、94-101、166-168、
④ 著者名：石上阿希、水谷隆之、稲葉有祐、宮本祐規子、長谷あゆす、丹羽みさと、出版社名：八木書店、書名：江戸吉原叢刊　第四巻遊女評判記 4　貞享～正徳、発行年：2011 年、ページ：59-106、163-192、508-509、512-513
⑤ 著者名：石上阿希、赤間亮、森西真弓、廣瀬千紗子、大西秀紀、倉橋正恵、松葉涼子、相原進、加茂瑞穂、出版社名：立命館大学アート・リサーチセンター、書名：『文部科学省グローバル COE プログラム「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ拠点」（立命館大学）上方芸能研究会報告書「権藤芳一上方芸能を語る－能楽・文楽・歌舞伎、そして武智鉄二－」』、発行年：2011 年、総ページ数：252

〔産業財産権〕
○出願状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計０件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
「近世艶本総合データベース」
http://www.dh-jac.net/db13/ehoncatalogue/FMPro?-db=ehoncatalogue.fp5&-lay=layout2&-format=index.html&-view

６．研究組織
(1)研究代表者
石上　阿希（ISHIGAMI AKI）
立命館大学・衣笠総合研究機構・ポストドクトラルフェロー
研究者番号：20516819

(2)研究分担者
なし　　（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
なし　　（　　）

研究者番号：